



特別審査員



チーム工藤



チームはまどり



チーム426 発表



チームOKM



grow up iizuka



飯塚ひとまち研究会

「良い街へ住みたい」から「良い街へ変えたい」へ

飯塚ロータリークラブ50周年記念事業 つなぐプロジェクトプレゼンテーション大会へレポート

【概要】

去る10月14日(日)、飯塚市の伝統ある芝居小屋「嘉穂劇場」にて、市内の大学生らによる「大学生が飯塚のまち・ひと・企業とつながり、将来根付いていくには？」をテーマとしたプレゼンテーション大会が行われ、これに私も参加しました。

この大会は、市内の大学生ら5人以上からなるチーム10チーム以上が参加で、各々考えられたテーマを課題とした企画を提案し、9月に行われた一次審査により本選へと選出された6チームによるプレゼンテーション大会です。

どのチームも若い力を最大限に披露し、持ち時間10分の中で斬新かつユニークなプレゼンテーションが繰り広げられ、私のチームも、学生の熱気の漂う熱い討議に参加しました。

審査は「アイデア性」や「実現可能性」など複数項目に渡り、特別審査員の他一般観客による

得票が行われました。

6チームの中から、最優秀賞、優秀賞、審査員特別賞が与えられ、見事最優勝に輝いたチームには、賞金のほか、プレゼンした企画を実行に移すための資金などが授与されました。

【感想】

私は今回の「つなぐプロジェクト」の課題、「地域と学生をつなぐ」を考えていくにつれて、当たり前なことなのですが、私たちはただの大学生ではなく、飯塚の大学生なのだ、と初めて意識しました。地域と学生つながり、これからの日本、特に大都市以外の町ではこれが重要になってくると考えています。

今回のプロジェクトを通して、飯塚とその町に住む若者から変わっていったらいいな、と思うようになりました。

また、私のチームは今回、惜しくも優秀賞第2位という結果でしたが、実効性や、現実的な問題、などを考慮しつつ主体的にアイデアを考える素晴らしい経験となりました。

〈レポート〉



小島 誠児(おばた せいじ)
飯塚市生まれ。地元中学・高校を卒業。現在は九州工業大学情報工学部の博士課程にて、医療機器等に活用できる最先端のレーザー技術を研究中。地域のイベント等にも積極的に参加している。



優秀賞



最優秀賞



3. 期待する効果

- 飯塚の良さを深く知った上で社会に出ていようになる
 - 良さを外に広げてくれる可能性が期待できる
 - 飯塚に残ってくれる可能性が期待できる
- 自分の話を聞いてもらえる場所ができる
 - より興味のあることを学び、その学びを還元してくれる可能性が期待できる
 - 自分が考えていることを言語化して人々と共有する行為が学習を大いに進めることにはよく知られている



学生



特別審査員賞

